

第 17 回日本応用老年学会大会 発表要旨

ICT サービスの利用によって生じた「情報格差」が及ぼした「生活の変化」について：年代間、シニア間の差を定量調査で分析

筆頭発表者氏名・共同発表者氏名）水野一成、近藤勢津子、吉良文夫

【目的】

ICT サービスを利用したことによる「生活の変化」について分析した結果を基に『情報格差による影響』がどのように存在しているか、「年代間」「シニア間」において定量的に分析する。

【方法】

2022 年 1 月に関東 1 都 6 県を対象に実施した訪問留置法による実査結果を用いて、ICT サービスを利用したことによる「生活の変化」を基に、因子分析の上、クラスタ分析を実施。クラスタの特性を明らかにすることで、情報格差について考察する。

倫理的配慮：調査票作成にあたり、研究所内で審議を経ている。その際、指導的役割の専門家より十分な指導を受けている。回答データは統計的処理をし、個人を特定しないこと、調査は強制ではなく調査員が調査内容の説明の上、了承を得ている。

【結果】

1. 単集計結果（全年代）11 の尺度を 4 件法で測定。最も影響が大きい項目は「疑問を調べるようになった」92%、最も影響が小さい項目は「カードが減り財布がすっきりした」37%。
2. 因子分析 3 因子「情報」「ペーパーレス」「購買」を抽出。
3. クラスタ分析 4 クラスタ「多方面」「情報・購買」「情報」「限定」に分類。
4. 年代間格差 シニア層(60・70 代)は「多方面」「情報・購買」の割合が、若中年層と比較し、有意に低い。
5. シニア間格差 シニア層だけで 4 クラスタの特性分析を行うと、生活の変化が小さい「限定」は「70 代後半・日々の活動活動が消極」の割合が高い。

【考察】

シニア間で格差が生じている原因の一つに、ライフスタイルが関係していることが確認できた。シニア層は急速にスマホが普及し、当調査において、60 代は 91%、70 代は 70%が所有している。そこで、スマホのリテラシー（操作方法）と「生活の変化」をクロスさせ、考察を深める。「多方面」「情報・購買」「情報」「限定」それぞれのクラスタ間には「アプリごとの詳細設定ができる」「アプリのダウンロードができる」「初期設定アプリの活用ができる」など、実行できる操作の割合に差が生じていた。以上より、シニアにおいてスマホ操作の出来る範囲が情報格差の一要因となっていることが伺える。

【結論】

ICT サービスを利用することによる生活の変化に関し、シニア層は若中年層と比較して恩恵を享受できていないことが明らかになった。さらに、シニア間でも差が生じており、ライフスタイルや、スマホの操作スキル等、その要因は複数重なり合っていることが垣間見えた。